

青森中央経理専門学校 青森中央文化専門学校
学校関係者評価委員会 報告書

学校法人青森田中学園
青森中央経理専門学校
青森中央文化専門学校
学校関係者評価委員会

学校法人青森田中学園 青森中央経理専門学校並びに青森中央文化専門学校は
令和6年度第1回学校関係者評価委員会を開催いたしましたので報告致します。

●開催日

令和6年 8月21日(水) 13:30～14:40

●開催場所

本学園9号館(学術交流会館)3階 934教室

●企業等委員

栗原 良明 氏	(ライフプランニングフォース 代表)
永井 栄 氏	(医療法人白鷗会 まちだ内科クリニック 事務長) 欠席
高坂 麻子 氏	(公益社団法人 青森観光コンベンション協会/ねぶたの家 ワ・ラッセ 副館長)
今 勉 氏	(青森市横内町内会 町会長)
樽澤 康太 氏	(株式会社ティエル・マネジメント/青森中央経理専門学校卒業生)
今 順司 氏	(青森県アパレル工業会・株式会社蓬田紳装 取締役工場長)
泉谷 里奈 氏	(株式会社 アプティマルワ/青森中央文化専門学校卒業生)

●学校側

石田 憲久	(学校法人青森田中学園 理事長、 青森中央経理専門学校 校長、青森中央文化専門学校 校長)
櫻庭 肇	(学校法人青森田中学園 法人本部長)
鈴木 伸吾	(青森中央経理専門学校 主任教諭)
曾我 武	(青森中央文化専門学校 主任教諭)
塚本 大広	(青森中央経理専門学校 教諭)
佐藤 紋子	(青森中央経理専門学校 教諭)
大水 咲良	(青森中央文化専門学校 教諭)
竹洞 春佳	(青森中央文化専門学校 教諭)

●次第

1. 開会あいさつ

学校法人青森田中学園理事長

青森中央経理専門学校校長

青森中央文化専門学校校長 石田 憲久

2. 出席者（委員）紹介

→資料に基づき、出席者を紹介

3. 規定・位置づけ

→資料に基づき、規定・位置づけを確認

4. 令和5年度自己点検評価結果について

→概要と取り組み状況・成果について説明

○基準3 教育活動

→青森中央経理専門学校では、今年度も2年生のみで東京方面への研修旅行を実施することができた。また、卒業年度の学生が対象の卒業発表において、外部聴講者の聴講をこれまでの発表会場での聴講に加え、今年度はzoomを活用しての聴講も併用した。

○基準4 教育成果

→青森中央文化専門学校では、就職率は令和6年3月末時点で100%であった。また、今年度の退学者数は1人であった。青森中央経理専門学校では、就職率は令和6年3月末時点で96.5%であった。また、今年度の退学者数は0名であった。

○基準5 学生支援

→両校ともに、学生の一部は何らかの疾病または障がいを有しており、その学生に関する情報共有を養護教諭の先生あるいは臨床心理士の先生と適宜、図っている。

○基準7 学生の募集と受入れ

→青森中央文化専門学校では、令和6年度入学者数は14名であり、令和5年度入学者数より増加した。なお、令和6年度入学者のうち、指定校推薦による入学者数が14名中4名であった。青森中央経理専門学校では、令和6年度入学者数は13名であり、令和5年度入学者数より減少した。令和6年度入学者のうち、指定校推薦による入学者数が13名中9名であった。

○基準10 社会貢献

→青森中央経理専門学校では、8月に青森県総合社会教育センターでのパソコン講座を実施した。また、11月には公開講座「教育費から考えるライフプラン～青森県の進学事情とお金の賢い準備方法～」も実施することができた。

5. 質疑応答・意見交換

→委員の皆様から自己点検・評価報告書に対する質問・意見等を頂く

委員からの質問・意見等	質問・意見等に対する回答
電子化・ペーパーレス化・アウトソーシング等を実施し、効果が出ているものはあるか？	今年度から Microsoft Forms（アンケート作成ソフト）を活用し、就職活動報告書や公欠願などの願関係の提出を電子で実施している。すぐに確認ができる、データで蓄積されているというメリットがある。この他にも少しずつ電子化への移行を進めていきたい。
現在は何のくらいの数のサークルが、どのような活動をしているのか？	現在、専門学校には3つのサークルがあり（スポーツサークル・フォトサークル・eスポーツサークル）、事前にサークルを結成するにあたり活動目標を予め立ててもらい、それをもとに活動している。また、大学のサークルに加入している学生もいる。
専門学校で2年間学ぶ中で、専門分野外に就職を希望する・した学生はいるのか。就職後の離職率の情報は入ってくるのか。	専門分野外への就職は少なからずある。経理では、現2年生で、エステに就職が決まっている医療事務コースの学生がいる。学園のキャリア支援センターやハローワークを活用しながら内定に向けて指導している。また、離職についての情報は本人発信が殆どという状況で、我々が定期的に内定先に連絡する等はしていない。
定員は何名か。企業からの募集はどれくらいあるのか。	両校とも定員は20名である。また、求人は多くなってきており、どこの業界も人手不足の印象がある。
評価アンケートとは、どういうことを聞いているのか詳しく知りたい。	授業に真面目に臨んだか等の学生側の質問と、担当教員の教え方は分かりやすかったか等の教員側の質問等、記述で授業の良かった点、改善してほしい点等を質問事項として挙げている。
電子化、DX化を図る際、どのようなところから情報を得ているのか。また、2期制にしたことによって良かった点、改善点があれば教えて欲しい。	情報収集は、例えば商工会議所からであったり、学園の図書館情報センターからレクチャー等を受けたりしている。また、2期制になり、学期末テストの回数が3回から2回になり、学生からは良かったとの声を聞いている。教員側のメリットとしては、成績表の発送が3回から2回になり、他業務に充てる時間が増えた。

6. 次回日程（案）

→資料に基づき、次回日程（案）について説明

7. 閉会挨拶

学校法人青森田中学園法人本部長 櫻庭 肇

以上をもって、終了した。